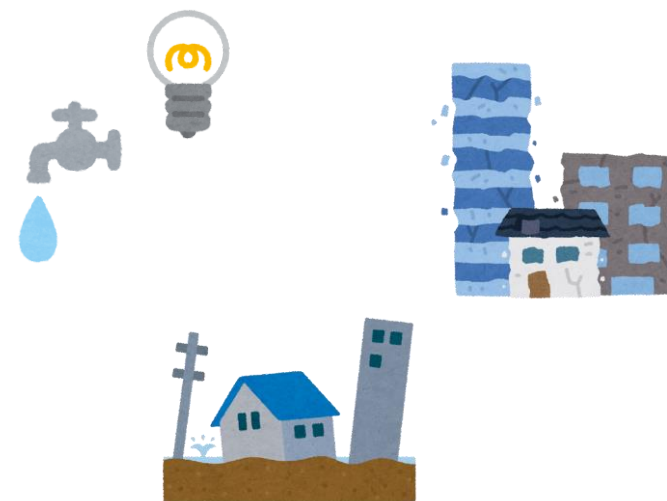


# 訪問看護ステーションが 取り組んでいる災害対策

大阪府訪問看護ステーション協会  
副会長 松本康代  
(訪問看護ステーションCIL豊中 所長)  
2025年1月26日

# 災害が起きたら・・・

- ライフライン停止
- 通信困難（電話は繋がらなくなる）
- エレベータが停止・電動駐車場の場合動かない
- 道路の損壊で移動・搬送が出来ない＋道路の渋滞
- 救急車が来ない
- 病院がいっぱいになる



「地震」にどう備えておくべきか？

大きな災害が起きると支援者も被災者となり、直ぐには動けないことが想定されます。  
そのためには、日頃より自助による個別の災害対策を立てておく必要があります。

訪問看護事業所だけでは困難なので、利用者・家族、地域の方々、医師・看護師・介護事業所関係者・行政関係者等と一緒に、災害に備えることが重要です。

利用者の生活を守るために、各地域で訪問看護ステーションとしての役割が果たせるよう協会としての支援も、訓練を通してブラッシュアップしていきます。

# 各事業所での災害時行動計画（BCPの一例）

災害発生時間帯	訪問中	事務所内	休日
発生直後 各自の初動 ＊まず火を消す  <報告内容> ①居場所 ②安否・被災状況 ③行動（どうするか）	自身の安全確保 利用者の安全確保 周辺の情報集約 ①iPadメッセージ②MCS ③LINE④職員用グーグル フォーム入力と通信状況 で可能な物を順に使う 帰社途中でガソリンを補充	自身の安全確保 事務所内の安全確認 周辺の情報集約 ①大阪府訪問看護ST協会の 災害報告②グーグル フォーム利用者・職員回答 を確認③MCSで豊中市 訪問看護ST連絡会・豊能 ブロックに報告	自身の安全確保 周辺の安全環境確保 周辺情報の集約 ①iPadメッセージ②MCS ③LINE④職員用グーグル フォーム入力と通信状況 で可能な物を順に使う ＊出勤する場合は明るく なってから移動
利用者安否確認	トリアージランクA（6時間以内）B（12時間以内）C（24時間以内）D（36時間以内） ＊保健所との共有MCS安否確認を併用 利用者のグーグルフォーム回答状況確認		
記録	職員・利用者の安否確認を記録（確認内容・日時・連絡者名・聞取者名）		
訪問調整	再トリアージで訪問予定を決定（2名一組で訪問実施）		

# トリアージの取り決め（CIL豊中での一例）

**Aランク（6時間以内）** ＊ 安否確認の連絡取れない時は訪問対応

①酸素吸入中で自身や家族等周辺の人が酸素ボンベへ切り替えが困難な人

②高流量酸素吸入中の人

③バッテリー機能のない吸引器使用の人

Aランクの人は普段に対策を立ててBランクにする



**Bランク（12時間以内）**

呼吸器・酸素吸入・吸引器（バッテリーあり）・加温加湿器・CVポンプ・吸入・カフアシスト・透析・モニター等電源を必要とする機器を使用している人

**Cランク（24時間以内）**

エアマット・電動ベッド・リフト・導尿・ストマ・経鼻等経管栄養・尿カテーテル・インスリン・排便ケア等処置がある人と一人介助での移動が困難な人

**Dランク（36時間以内）**

処置は特になく、自身や家族等で避難行動のとれる人



# 大阪府訪問看護ステーション協会の取り組み

## 訪問看護災害対策検討委員会

- 訪問看護利用者の災害時支援対策
- 災害時の訪問看護ステーションにおける相互支援ネットワークの構築
- 多職種や行政の災害対策支援策と本委員会事業との調整
- 防災への啓発活動・模擬訓練 など

## 大阪府在宅患者災害対策整備支援事業

2019年より、大阪府内、44拠点の訪問看護ステーションに簡易発電機や蓄電池等を設置し、大阪府の人工呼吸器装着者の災害発生時の事前の個別支援対策の推進      ＊2024年は更に拠点を増やし50拠点に

## 大阪府在宅患者災害時支援体制整備事業

2018年に大阪を直撃した台風21号では、長期停電の不安から、人工呼吸器患者が電源確保を理由に救急搬送を要請するケースが多発し混乱が生じました。2019年大阪府は在宅患者災害時支援体制整備事業に着手し、平時より在宅患者の最も近くで医療ケアを行う訪問看護ステーション・訪問看護師の機動力を生かした災害時における在宅患者の支援体制を整備することになりました。

大阪府訪問看護ステーション協会は、この自助行動啓発や拠点設置の仕組みを整備し、本事業を協力支援しています。

### 設置ステーション（府内 44 か所を 50 か所に増）

大阪府在宅患者災害時支援体制整備事業により、2019 年より簡易発電機等を配置・管理する拠点として

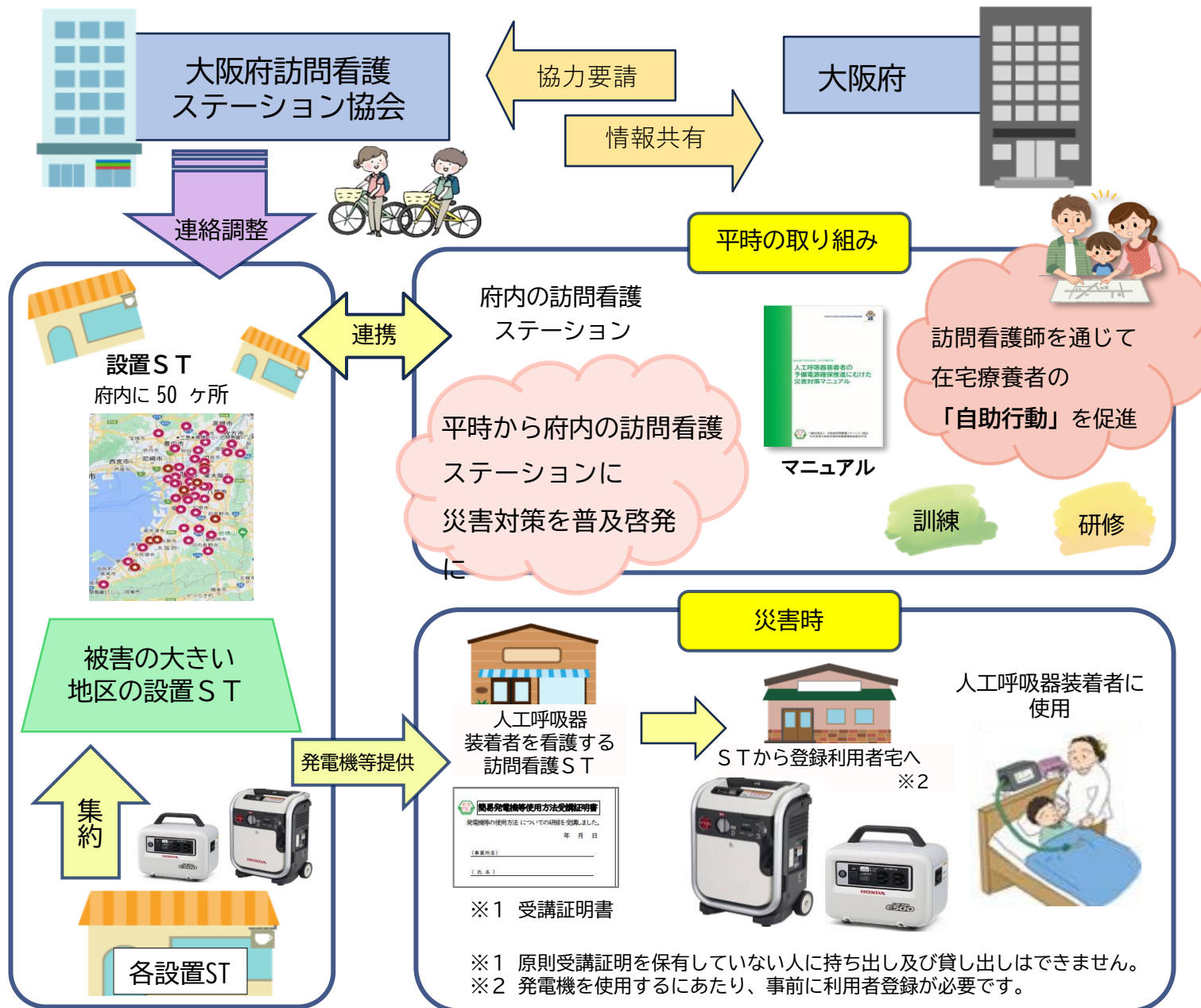
府内に44か所設置ステーションを設け、2024年には50か所に増えました。

設置ステーションは大阪府から補助を受けて、

- ①簡易発電機等の貸し出しの協力（災害発生時・研修・訓練・地域との連携）
- ②簡易発電機等の管理
- ③研修を受講し、訓練を受けた人に受講証明書の発行を行っています。







## 大規模災害時 被災状況報告フォーム

このフォームは、大規模災害時、大阪府下の訪問看護事業所が、自事業所の被災状況を報告するものです。貴事業所の被災状況についてお知らせください。

大阪府訪問看護ステーション協会HP  
災害対策情報>大規模災害時被災状況報告フォームで事業所の記載状況を把握

災害委員は、以前よりLINEやMCS・Slackで繋がっていましたが能登半島地震をきっかけに、より強い繋がりとなり、地域の被災状況の有無や停電地域の状況など情報共有をしています。また、大阪府在宅医療推進グループと大阪府訪問看護ステーション協会の連絡網が整い、繋がりがいっそう強固になりました。地域とも繋がりを強化し「災害に強い大阪」を目指します。

# 災害訓練

6月13日（木）大阪府下11ブロックが参加して、大阪府災害時連絡体制確認訓練を実施



## 実際に訓練をしてわかったこと

- 発電機はかなりの大きさで、重量もあり、エレベーターを使えない災害時に階段で運ぶのはかなりの重労働
- 発電機の貸し出しには、重さとオイル漏れリスクの課題
- 蓄電器をリレー輸送することを推奨



# 災害が起きたら・・・

➤医療依存度が高い利用者さんは簡単には避難出来ない

避難先情報について保健所と連携したい

避難する場合→**移動手段**（人と車の手配）と**避難先**の確認

避難先（病院等）でのマンパワー不足⇐**人員としての支援**

避難をしない場合→復電までバッテリー・蓄電池の次の手配

各市区連絡会で人員情報を集約し支援体制構築

→**蓄電池のバケツリレー先**と**支援者**を確保

＊呼吸器の加温加湿器はオフにし人口鼻に切り替えておく

➤電源供給が困難となった時の対応を普段から想定しておく

➤地域連携→日頃の顔の見える関係性が災害時役に立つ→協会会員活動を活用してもらえよう日頃より支援

利用者さんも事業所も地域で顔の見える関係作り、地域連携を！